

様式 4

令和 8 年度第 1 回
富士見市社会教育委員会議
議事録

日時	令和 8 年 4 月 7 日 (火)						開会 午後 7 時 0 0 分	閉会 午後 9 時 1 0 分	
場所	富士見市立中央図書館 2 階 視聴覚ホール								
出席者	委 員	渡邊 (知) 委員	関野委員	戸田委員	深瀬委員	本田委員			
		○	○	○	○	○			
		八木橋委員	河村委員	檜山委員	亀森委員				
		○	○	○	○				
	事務局	生涯学習課 課長、副課長、主任、主事							
公開・非公開	公開 (傍聴者 0 人)								
議題	1 あいさつ 2 ふじみ野市の事例ヒアリング 講師 元ふじみ野市社会教育課担当職員 ふじみ野市学校運営協議会会長 (元小学校地域コーディネーター) 3 協議事項 ・地域学校協働本部について (ふじみ野市の事例について)								

議 事 内 容

1 挨拶

2 ふじみ野市の事例ヒアリング

3 協議事項

【議 長】ふじみ野市の全校に学校運営協議会（以下、協議会）があり、各校に地域コーディネーター（以下、CO）が1～2名いるのか。報酬は足りるのか。

【講 師】各校に1～2名いるが、COのほかに一緒に動く人が必要と感じている。報酬の予算は、以前よりは倍増している。

【講 師】手伝ってくれる人がいるが、完全に無償ボランティアになっている。自分が活動している小学校でも二人ほど手伝ってもらっている。報酬予算は足りないと感じている。自費購入や自分の電話を利用する場合もある。学校の電話を利用してと言われているが、仕事しながらCOの活動をしているので、仕事が終わってから学校に行って先生と調整している。やりがいはあるが時間のやりくりが大変かつ報酬も少ないため、COは専業ではできない。

【委 員】協議会に行政職員が入っているとのことだが、学校側からのリクエストで関係課から協議会に参加するのか。

【講 師】次年度の課題の関係で、関係課の職員に依頼した経緯がある。

【委 員】始まりはそうだろうが、次からも同じか。

【講 師】そのとおり。実際に職員が参加してから要望が生まれる場合もある。参加職員が担当外の場合、参加する意味に疑問を持つ職員もいた。その後はリクエストになったが、様々な課題について行政代表として参加しているという姿勢で、課題を拾ってくるように意識してもらった。

【委 員】学校は、学校内や教育委員会という狭い世界で収まりがちなので、市と行政とつながり、庁内で情報共有が図られるのは良い取り組みだと思う。最初は手探り状態と思って、きちんと時間をかけて考えていきたい。

【委 員】協議会の報酬は。

【講 師】会議の回数に限らず年間5,000円。学期毎に1回は開催だと思うが、人数が多い所は教員にも加わってもらい、部会を作って一緒に話をする機会を増やしたりなどしている様子である。

【委 員】様々な話が出るため、予算で縛られると学校側もやりにくさがあるので、会議回数に関わらず報酬額が決まっているというのは良い。

【委 員】ふじみ野市の方法だと、COに人材を得るかが課題だと思う。

【講 師】別の小学校では、現役の保護者がトライルームを開いて子どもたちの居場所をつくっており、今はそれがどんどん広がっている。PTAに参加する保護者は学校にも興味があるので、声をかけていくのがよい。

【委 員】協議会の話を知ると、PTAは現役保護者のもので、地域は地域で、と隔てられているところを橋渡しする役割が必要だと思うので、その担い手であろうCOがいることは良いことだと思う。

【講 師】学校のことを少しわかっっていて、子どもが卒業して落ち着いたぐらいの世

代が、COとして一番動きやすい印象がある。

【委員】自分の子が卒業したというのが良いポイントだと思う。学校から離れてもう終わりではなく、今度は地域の人として携わってもらえるのは、すごく良いヒントとなると思う。

【委員】ボランティアアプリ「Hi!」には地域の方も参加しているのか。それは登録のようなイメージか。

— 資料参照 —

【講師】そのとおり。地域の方の場合、一旦は口コミからたびたび来てもらうが、感触が良ければ、アプリを入れてもらっている。

【議長】イメージとして、協議会が会社の取締役員会で大きな話をして、具体的に進めるは、COの方が中心に動いていると受け取った。

【講師】ふじみ野市ではそのように役割を捉えて実施している。役割が明確でないと協議会だけで進んでしまうので、幅広く活動を広げるために役割を明確にすることは重要だと思う。

地域学校協働活動には様々な人に参加してもらいたい。

【講師】1回も学校に来たことがない人が学校に来る、子どもに会ったことがない人が子どもに会うということが一番大事だと思っている。

【委員】社会教育課が会議を開きとりまとめながら、各分野各地域にあった内容でCOが活動していく形が良いのか。

【講師】社会教育課は情報交換の場を設けたりはするが、COに指示を出して動いてもらうことはない。また組織という形をとってない。

【講師】組織には属してないが、困ったときは社会教育課に相談している。行政はたくさんのコネクションがあるので利用しない手はない。

富士見市には公民館が4つあり、そこが地域の中心として相談先になってもよいのではと思う。ふじみ野市に公民館はないので、地域のサークルを頼ろうとしたときに困った経験がある。

【委員】教職員と行政のつながりが重要で、市全体で考えないと難しいと思う。

【講師】考えていくことは大事だが、コミュニティスクール（以下、CS）の考え方を知らずに「やってほしい」では感触がよくない。街づくりや地域づくりにどうやってつながるかを念頭に、関わってもらう方がスムーズだと思う。

【委員】行政職員にはどのようにして協議会に参加してもらったのか。

【講師】当時CSを担当していた学校教育課の職員に動いてもらった。

【議長】学校の課題なら学校教育課職員でわかりやすいが、例えば学校周りの道路が課題ということで道路課というのでは、反応は良くなかったのでは。

【講師】最初の反応は良くなかったが、CSを始めて数年経っていたので取組みは知られていたと思う。また課題が具体的だったのでその点は良かった。まずは生涯学習課と学校教育課と一緒に組むことと、協議会のあり方が大事だと思う。

【講師】私が協議会会長に立候補した理由は、CO活動の中で保護者・先生・ボランティアと話す機会が多いが、その中で「現場の声が届いているのか？」と感じていたからだ。

会長になると長く務める場合も多く、他にもいろいろな職を兼ねている場

合もあるので、「この人に頼めば」というようになっていってしまう。
長く務めている人も、様々な経験もあり、地域に貢献しようという人だけ
れども、年齢を重ねていくと、協議会の構造が現場の小・中学生や保護者
たちから離れていきがちになると感じたため、自分がまだ現場の声を拾え
ているうちに、協議会に入って構造を変える立場になりたかった。

学校では校長がダメと言えればダメと思われがちだが、協議会はそのような
感じではなく、みんなが腹を割って話し合える場にしようと試みている。

【講 師】協議会の中には、校長が説明して委員が黙って了承するということが多か
った。校長等がずっと話を続ける状況は良くないと思っている。せつかく
色々な人が集まる場なので話し合わないのは勿体ない。協議会でどれだけ
議論できるかがすごく大事であり、会長や議長が雰囲気を作っていく。

【講 師】自分の活動する小学校の協議会では、参加者が必ず言葉を発すことができ
るよう“情報交換シート”を導入している。話が長くなる人に、「話はそ
こまでで」と言える雰囲気がある場となっている。

先生・保護者・地域の人の時間を費やす会議なので、一言も発しないのは
避けたい。地域の課題も話し合えて、校長もその場で聞いているのが理想
だと思う。

【講 師】もう一つ言えば、やはり校長の役割などが結構大事だと思う。

【講 師】小学校はまだ聞いてくれるが、中学校は事務的。校長が「もうこれで終わ
りですよね！」という姿勢でいると、何のための協議会かと感じてしまう。

【議 長】学校が協議会の意味を理解していないということか。地域と協働するよう
にと国が言っていることなので、やらないといけない話合いであるはず。

【講 師】多くのCOから何度も言われたのは、学校が全然理解していないから何
とかしてほしいということだった。CSのことを学校が理解していない。

【講 師】まず校長がCSを理解することが大事で、そうでないと動きたくても動け
ない。研修や会議を何度もやっても、話が校長止まりで現場の先生たちに
届いていないこともある。人材やスキルについて提示しても利用されない
のはもったいないと感じている。

【講 師】富士見市の学校でも地域の人と一緒に活動していると聞いている。地域学
校協働活動なので、地域づくりとか地域の視点を、学校とどんな風にリン
クさせていくかというところが、社会教育としての視点かと考えている。

【議 長】同じ地域と学校で活動することはやっていたが、地域を超えたダイナミズ
ムが必要じゃないかと今までの会議でも言っていた。学校と地域をつなげ
るCOは大事だが、地域と地域もつなげて広げる統括コーディネーターみ
たいなものを、市が社会教育の役割から考えられないか。

【講 師】そうせねばならない、ということはないと思う。

【委 員】ふじみ野市では活動に企業が協力することはあるのか。

その場合、中学校区の中にある企業が協力するのか。

【講 師】企業が協力することはある。しかし同じ地域の企業でできることを、他の
地域の企業ばかりに依頼するのはよくないと思う。地域の資源を活かし、
子どもたちにも地域に資源があるんだと気づいてもらうことが大事。

横浜市的小学校では、地域に何があって、人、物、事柄を載せたマップを
作成して、視覚的にまとめていた。その学校ではマップを参考に、どの単

元に活用するかと参考にしているそう。今までは先生が単元の中で何を学ばせるかを、先生自身が調べていたので時間がかかっていた。この部分のように教員免許の必要がない調査や調整はCOが担うのが効率的だと考えている。

自分の活動する小学校では掲載資料のように、その時期は何の単元で、地域では何を行い、実際にどのように活用したかなどを年間スケジュールに落とし込んでいた。そうすることで次年度に先生が異動しても情報の蓄積が見える化されているのでとても便利。他の学年の先生も見るので学年を超えたつながりが生まれたり、掲示することで協議会の人や来校した地域の人にも情報共有ができるので、さらに地域参加しやすくなってくる。例えば富士見市では梨の栽培が盛んと聞いたが、小学3年生では地域を学ぶ単元があるのでそれと絡めたりなどのイメージかと。

【議長】 その取組みの出発点は。もともと持っていた情報をかき集めたのか。

【講師】 それもあるが、先生単独で依頼すると他の先生が知らなかったりする。職員室で情報を出させて、年間スケジュールに書き入れたりした。これなら先生も主体的にCSに関わったという感覚を得られる。

【委員】 資料ではCOはよくチラシを制作しているが、その場合、学校の備品を利用していると思うが、様々な活動の中でのCOの立ち位置はどこなのか。

【講師】 学校側である。

【議長】 作業場所はあるのか。

【講師】 決まった場所はなく、応接室の一角を借りている。作業する際は校長に確認をとってから利用している。

【委員】 地域のサークルや公民館活動、ボランティア等に参加していない市民を、新たに引き込めるきっかけを考えているのだが、このような取組みの中で、地域が実際にどのように変わったか、何か感じることはあったか。

【講師】 以前は、保護者は保護者、自治会は自治会、高齢者は高齢者、PTAはPTAと隔たりがあったが、そこが知り合うことで、以前より保護者と地域の距離が縮まったように感じている。

【講師】 自治会加入の例もあった。地域の神社の納涼祭を学校の校庭を開放して行った。キッチンカーを呼べるなど会場が広くなり、それを親子が楽しみにして来場者も増え、そこで町会の存在を知り、加入したそうだ。

【委員】 自分も学校の記念イベントを偶然知って傍聴しようと立ち寄ったが、防犯上なのか入場を断られた。学校の場合、卒業したら縁はそこまでだなあと考えた。おそらくそういう人は地域にたくさんいる。地域学校協働活動は地域にいるそういった人たちを巻き込めるのか。何か例などがあれば。

【講師】 自分の活動する小学校も記念イベントを行った際に、地域の方は誰でもどうぞと開放した。校長の判断により防犯上難しい面もあると思う。ただ、地域とつながることを試みてくれる校長は、町会の祭りでも校庭などを貸してくれたりして、どなたでもどうぞという形が増えてきている。学校を地域に開放する歩み寄りも大事だと思う。

【委員】 COは属人的な面があり、育成が課題なのだろうなと感じた。ある程度、組織的でないと育成が難しいと思うが、何か工夫はしているか。

【講師】 今のところ工夫はなく、育成はしていない。

社会教育課はノータッチ。CO任せになっている。

【講師】CO間の横のつながりがあるので、情報交換を頻繁に行っており、社会教育課で育成しなくても、CO内で育っている。

【議長】COのつながりで育成しているということか。

【講師】そのとおり。その時大いに活用されたのはラインワークス。社会教育課が最初に立ち上げ、社会教育課とCO、CO全員とでもすぐに情報交換・共有ができたのが良かったと思う。

【講師】COの仕事は、一人でこなす量とはいえない。そこで「手伝うよ」と声をいただくことも多く、一緒に行動するうちに抜きんでた人が出てくるので、その時がチャンスだと思う。自分もやりたいと思っている人は必ずいるので、自然発生的にCOが生まれている感じである。

【講師】社会教育課では、どういう人材が現場にいるのかがわからない。

【委員】組織化する場合、どういうアイデアがあるか。

【講師】COたちの組織、横のつながりを作るのは大事だと思うが、社会教育課を頭に置いた組織化は形骸化しそうなのでやっていない。

【委員】人脈について社会教育課に相談することがあると言っていたが、フジミライテラスのような人材をプールするプラットフォームはどのようなものであれば使いやすいか、アイデアがあったら教えてほしい。

【講師】企業とつながりがあるのは魅力的。中学生にはキャリア教育があるので。

【講師】富士見市の生涯学習課もボランティアの名簿などはあるのか。

【事務局】人材バンクが該当する。

【講師】行政で一元化するには限界がある。またネットワークは育つものなので、管理しようとする途端に仕事が増え、だれてしまう気がする。ネットワークをってる人同士がつながり広がっていく方が現実的。

【委員】現在人材のプールが各所に点在し、それらをつなげる何かがあるといい。

【講師】生涯学習課のアンテナを高くしてよく観察するのが大事かと。あの人はよく知ってる人だよと、他の人につなげていくような。ここにいる委員の方々も人脈がたくさんあるから。人脈が必要なら知ってそうな人に聞く、知らなかったとしても話しかけたというのが次のつながりになっていく。

【委員】COのガイドブックがふじみ野市にあるが、そういう情報整理が大事だと思う。初めてCOになった人がそれを見て情報収集に使うなど。

【講師】ガイドブックはあくまで参考程度レベルで情報が少ないし、アップデートが追いつかない。いろんな人に聞いた方が早い。

【委員】やはり属人的になってしまうのか。

【講師】ガイドブック等は更新の反映が遅い。ボランティアに連絡してみると、すでに活動をしていないということがある。スピーディな更新が大事。

【委員】地域COの男女比はどのくらいか。

【講師】学校運営協議会の会長は町会長から選出されたりするので、圧倒的に男性が多いが、COは半々くらいか。

【講師】動いてるCOは女性が多い。

【講師】中学校だと、まだどう動いていいかイメージが湧いてない様子。

小学校では、学校から具体的なリクエストが多いので動きやすい。

【講師】中学校では地域ボランティアに出す方をメインにしているようである。小

学生の時に地域にお世話になったから中学生で恩返ししていく形かと。

【講師】 ある程度の型が見えてきて、それが伝播していけば動けるかもしれない。

【講師】 モデル校など。ふじみ野市でも置いてはいた。

【委員】 地域学校協働活動は新しいシステム。旧来の学校教育を受けていた者にはイメージが湧きにくいのもかもしれない。どんなものなのか、やっていくとどんなストーリーが待っているのかを共有することが大事。

【講師】 やはり協議会や社会教育委員会等、それぞれの議論がとても大事。

【講師】 普及にあたってネーミングは考えた方がいい。似た名称で漢字の羅列ではわかりにくい。「コミュニティスクール」でよくないだろうか。

【委員】 今のふじみ野市民に、CSは浸透しているのか。

【講師】 正直そんなには。

【委員】 やりながらじわじわ広めていく広報活動が必要かと思う。

【講師】 学校に関わっている人は分かっているが、学校にも地域にも関わっていない人にはやはり知られてないと思われる。

【講師】 教師の中にも知らない人がいる。

【委員】 保護者はどうか。

【講師】 CSという名称ぐらいは。けど、そんなに多くではないと思う。

【委員】 居場所作りのイベントに参加した際、支援活動をしているという人にCSを知っているかと聞いたが、知らないと言われた。

【委員】 CSを知らないという現状で、学校と関わっていない人にまでどうやって流行らせるか。そのプロモーションがすごく大事だと感じた。

【委員】 これから制度設計や組織設計の相談をしたいのだが、学校や子どもはあくまで地域のオーステークホルダーでしかないとした上で、中心を学校に置かずに、ほかに中心を置いたやり方は可能だと思われるか。

【講師】 学校は地域の中にあるものだと思っている。学校を中心にとこだわるとそれこそ先ほどの学校・地域に関りがない人たちが抜け落ちてしまう。安易な話だが公民館を中心とした在り方はあると思う。

【委員】 学校を中心としたとき、横断的に連携できるのか。ふじみ野市でもあそことあそこが連携して、と活動できているのか。

【講師】 協議会を合同で行っているところがある。小学校から中学校にあがるつながりで、近隣の小学校・中学校での合同などがスタンダード。自分の活動する小学校も近隣の小学校、中学校の3校で学期毎に行っている。

【講師】 高校もあるが、その先生が協議会に加入しているところもある。

【講師】 様々な設計があるので、実施しながら方法を変えていく。探っていく心持ちで実施するのが大事。

【委員】 ふじみ野市は先に協議会が立ち上がり、その後にCOを設置しているが、そのタイムラグはなぜか。

【講師】 先に学校応援団があり、協議会の素となるようなことをやっていたので、先にそれを固めたかった。小・中学校ともに固まってきたので、次は地域学校協働活動だ、ということでCOの話が出てきた、という流れがある。

【委員】 協議会が落ち着いた頃、協議会で支援コーディネーターやCOを決めたのか。

【講師】 協議会ではない。協議会は学校教育課が担当で、その委員は教育委員会の

委嘱。COは社会教育課が担当で、それぞれの学校の校長先生に推薦をお願いし、教育委員会で委嘱する。協議会の中でCOを決めるわけではない。また協議会の中にCOが必ずいなきゃいけないというわけでもない。

【委員】校長の推薦というと、協議会での話合いの吸い上げではないのか。

【講師】ふじみ野市では、あくまで校長からの推薦となっている。

【委員】地域学校協働活動について、ふじみ野市では本部を置かず、モデル校2校以外の学校ではいくつかしか動いてないというが、できていない部分のボトムアップのために本部を作ろうという考えはないのか。

【講師】地域学校協働活動の組織を作ってもボトムアップにはつながらないと考えている。COを統括するような組織化ではなく、COを個別に支援したり研修を設けたりといったサポートで底上げしていくのが現実的だと思う。

【議長】中央集権的な組織ではなく、分散型、ブロックチェーン型のイメージか。

【講師】そのとおり。ただ底上げという点がとても課題である。

【講師】学校にも地域性があるため同じことができない。CO全員が同じ研修を受けても同じことができるかという点と難しい。本部がないのはそういう理由かもしれない。それなら個別にCOを支援してもらおう方がいい。

【講師】本部がボランティアのプールみたいなつながりのことを指していて、学校応援団とかいろいろ組織はあると思うし、それぞれリーダーがいてCOがいて。その差配で本部を利用するのはいいと思う。ただ地域学校協働本部を構えて指示するような組織だと結局うまく回らない気がしている。

【委員】市がこういう市民になってほしい、みんなこうやっていこうということで本部を作ってほしいというイメージでいたが、この話合いの中でちょっと違う気がしてきた。ただ地域によって違うというなら、中心としての富士見市はあった方がいい気はしている。

【講師】中心はあった方がいい。ただしそれは組織という形ではなく、共通で持っているビジョンなどを示しているような気がする。それを協議会やこの場で議論し、教育委員会議で話していくのは必要だと思っている。

【委員】課題の吸い上げとかはどうやったのか。

【講師】各協議会で行った。ただし一人一人が発言する場を作って、安心して意見が言い合える関係を作ることが課題の吸い上げにつながると考える。「これを言ったらまずいかな」「ここでこういうことを言うのは違うかな」と感じてしまうと、誰もしゃべらなくなる。思い切って言える、こんなことを言っても受け入れてもらえる、解決はしないけど共有したいと思える関係性を協議会で作っていくことが、課題の吸い上げにつながっている。

【講師】やはり協議会ではどうしても学校を中心とした地域づくりになるのだが、学校側が課題を正直にオープンに話してもらおうことが一番の吸い上げになる。隠そうとされるとみんなが突っ込んで聞けないので、学校側が「こんなこと困ってる」とか「お願いしたいことがあるんだけど」と発信してもらおうと、私たちも「じゃあ協力しましょう」と言えるようになる。

【委員】地域の課題の吸い上げはどうやっているのか。

【講師】それも協議会で。例えば、順番に一人一人話してもらおう中で、おみこしの人手が足りないという話が出たら、学校でチラシを配布するかとか掲示板を利用するかなど何かしらの形で協力できるように考えたり、話し合える

ようにしている。

【講師】そういう場面を1回見て、自分たちの課題も言えば何か突破できるかもしれないと思われれば、発言に出てくるようになっていく気がする。

【委員】先ほどの「先に協議会を固めたかった」というのはどういう意図か。

【講師】もともと教育長は協議会と地域学校協働活動を両輪で行おうという思いがあった。ただ最初から両方ともロケットスタートしても学校現場も混乱するため、まずは学校評議員から協議会に移行させ、軌道に乗ってから地域学校協働活動推進員に取り組んだと聞いた。

【委員】学校評議員制度は学校を評価するもので、学校が提示して評価の意見をもらう制度だった。それが協議会になった場合、まず校長の経営方針を承認するかしらないか決めたりなど会の在り方自体が大きく変わるので、まずはそこを軌道に乗せたかったのだと思う。そこからCSになるから、今度は地域の方にも入ってもらうという2段階構えにして、スムーズに移行できるようにしたのではと思う。

【講師】現場的にはそういう動きになる。

【委員】富士見市も今年はその流れで協議会を準備するけども、現場としてはCOをどうするのがこれから出てくるのでは。

【講師】学校応援団は各学校にあるか。

【委員】ある。

【講師】当面はそこで対応してもらう感じかと思われる。

【委員】先が見えないと「いつ、どうするのか」という話になるので、例えば、令和8年から3年間は協議会を動かしてみても、その次にCOなど地域活動の推進を入れていく、というように先が見えてくると、学校側も地域側も関わっている人も、導入までの道筋が見えると思う。
先が見えるロードマップみたいなものがあるといい。

【講師】やはり2、3年ぐらいやって現場の感触をつかむのもいいと思う。今年度はいろいろ揉んで令和9、10年度に向けて制度を整えるのがいいかと。一気にやらず、理解のある2、3校をモデル校として始めてみて、あれもこれもどんどんやりたいが出てくればと。

【委員】「管理職は理解しているが…」という話もすごくあるかと。やりたいと思っても先生方と一体となって動けないことは往々にしてあると思うので、教職員の全体研修会が開かれるといいと思う。

今回のように講師に来てもらい、CSがこんなに楽しそうになるんだと、前向きな理解が教職員全体あるいは市の職員全体でできると良い。言われたからやるとか、何が変わったかわからない、結局変わらないだろう、みたいな意識だと変わりたくても変わりにくいところがある。「こんなことをやりたい」と教職員も思えるような研修会だったらすごく良いと思う。

【講師】新しい取組みは負担が増えると思われてしまう。

【委員】学校間で格差が生じないように考えていかななくてはいけない。

【講師】この人と関わると仕事が増えるのではないかと構えられてしまう。そうではなく、負担が軽減されることを伝えたい。

【委員】職員だけでなく保護者にも説明してほしい。

COとして週にどのくらい学校に行っていたのか。

【講師】自分の仕事があるので毎日に行けなかったが、週3回くらいは行った。忙しいとほぼ毎日。ただ、学校に行かなくとも電話かラインワークスは毎日あるので、何もないという日はない。

【委員】学校に行くのは限られるが、何かしらのコミュニケーションはしてたか。

【講師】何かしらはしていた。ラインワークスがない日はほぼなかった。とにかく校長や教頭との確認事項が多かった。先生の業務の支障になるので、電話よりはラインワークスがやはり増えてしまう。

【委員】その時間のおかげで教職員の業務時間を削減したという結果がある。

【講師】自分がやっていることを後進に引き継ぐにあたり、何に効果があるのかを明確にしたいと思、教職員に初めてCOアンケートを行った。約半数から「業務時間削減になりました」との声があり、先生以外の人でもできること、ちょっとしたところでもすごく助かったと非常に効果があった。

「何かやってほしいことはあるか」の質問にも「こういう人を探している」との要望があったので、実際に探してアテンドしたりもした。

私はどうしても学校を中心とした地域づくりの方に考えてしまうが、ボランティアが見守りに徹しきれず、つい意見を先生にその場で言ってしまった時などは、先生の中には教育上のことに口を挟まないでほしいという厳しい意見が出ることもあった。今ではボランティアの心得を作成し、「Hi!」アプリに入った方には、注意事項で統一したりなどしている。

【事務局】確認ではあるが、社会教育課でCOを現在委嘱していて、謝礼を支払い、あとは情報提供を行うという流れであっているか。

【講師】そのとおり。学期に1回は研修会や情報交換会等を通して、CO全員に事務連絡や情報交換をする機会を設けてほしい。

【講師】他県で活動しているいい事例の人などを招いて話を聞き、情報交換や人を呼んで勉強して、自分たちでもできそうなことを増やしていく。

【講師】会議は先生や行政の動いている昼間に開かれることが多い。その場合、仕事がある人は参加できないので、やっぱり時間はすごく大事だと思う。今後はそういった要望が出るかもしれない。

【講師】ふじみ野市はある時から昼に開かれるようになってしまった。

【委員】謝礼は学校教育課から支払われているのか。

【講師】社会教育課から。

【委員】他市では教員業務支援課で支払われてると聞いたが。

【講師】それは学校事務職。地域の人に来てもらった講師料と思われる。ゲストティーチャーとか。そういうのが学校教育課。

【委員】地域学校協働活動に関わる予算は社会教育課、評議会は学校教育課。

【委員】ふじみ野市がそうなのか。それとも全国的にそうなのか。

【講師】全国的な所管で考えれば妥当かと。

【講師】最後に公民館を拠点にした地域学校協働活動を行っている自治体は和光市があるので参考にしてみると。

【議長】個人的にだが、学校に寄り添い学校のやりたいことをやることも大事だが、それを越えたものもやっていきたい。学校と地域（公民館）、二つをミックスするようなことにも可能性を感じている。

・次回開催日程

5月19日（火）午後7時から中央図書館視聴覚ホールにて開催予定。